

平成 24 年度 事業報告

(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

事業の状況

社会の繁栄の基礎は、科学技術の進歩と産業経済の発展にあるとの考えに基づき、わが国の優れた独創的な研究開発を推進し、科学技術の発展と国民生活の向上に貢献したいという市村氏の想いを実現するため、平成 24 年度も関係各方面の方々のご支援とご協力により以下の事業活動を積極的に展開し所期の成果を収めました。

又昨年度から東日本大震災復興支援事業にも新たに取り組みました。

1. 科学技術の研究開発助成

1) 新技術開発助成

科学技術に関する独創的な技術を実用化するために技術開発の努力をしている中小企業へ助成する事業です。平成 24 年度は、審査委員会の推薦に基づき 22 件(総額 295,280 千円)の助成を決定し、平成 24 年 8 月 2 日及び平成 25 年 2 月 7 日に、財団事務所において助成金を贈呈しました。

2) 復興支援新技術開発助成

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災で被災したものづくりに携わる中小企業の速やかな復興を支援するため、平成 23 年度から本助成を行いました。

平成 24 年度は、審査委員会の推薦に基づき 5 件(総額 56,290 千円)の助成を決定し、平成 24 年 11 月 7 日に仙台市のウエスティンホテル仙台において助成金を贈呈しました。

3) 復興支援特定研究助成

上記被災中小企業向け新技術開発助成とともに、震災復興に向けての緊急かつ重要課題解決のため、復興支援特定研究助成を行いました。大学・研究機関から応募に対し、審査委員会の推薦に基づき 5 件(総額 14,925 千円)の助成を決定し、平成 25 年 2 月 14 日に東京大手町の経団連会館において助成金を贈呈しました。

2. 科学技術の顕彰と国際技術交流

1) 新技術顕彰(市村産業賞、市村学術賞の贈呈)

わが国の科学技術の進歩、産業の発展、その他国民生活の向上に関し、産業分野あるいは学術分野の進展に多大の貢献をされた方を顕彰する事業です。

平成 23 年度の第 44 回市村賞は、本賞、功績賞及び貢献賞合わせて 15 件(総額 70,000 千円)に決定し、平成 24 年 4 月 27 日にホテルオークラにおいて贈呈式を行いました。贈呈式には特別招待として東日本大震災被害の甚大さに鑑み贈呈式を中止した第 43 回市村賞受賞者の方にも出席頂き、総人数で 240 名が出席しま

した。

また、平成24年度の第45回市村賞は、審査委員会の推薦に基づき、産業賞では功績賞3件、貢献賞5件、学術賞では功績賞2件、貢献賞5件の合計15件（総額55,000千円）を決定しました。

2) 国際技術交流(国際研究集会参加及び国際研究集会開催への助成)

市村学術賞受賞者が科学技術に関する国際会議、国際研究集会に出席する場合、渡航旅費を5年間に2回まで助成する事業で、平成24年度は3件（総額1,825千円）助成しました。

また、市村学術賞受賞者がわが国において開催する国際会議等を積極的に行なうための支援として平成21年度から始めた国際研究集会開催助成は、平成24年度は4件（総額18,000千円）助成しました。

3. 科学技術の創造性育成

1) 市村アイデア育成（第43回市村アイデア賞の贈呈）

次代をになう小・中学生のアイデアの芽生えを奨励するため、独創的なアイデアを募集し、優れたものを表彰して奨学金を交付し、科学への追求、創造への意欲を高めるよう育成する事業です。

第43回市村アイデア賞の応募総数は23,041件でした。

審査委員会の推薦に基づき、その中から個人賞として文部科学大臣賞1件、市村アイデア優秀賞1件、朝日新聞社賞1件、朝日小学生新聞賞1件、朝日中学生ウイークリー賞1件、科学技術館館長賞1件、市村アイデア記念賞6件、市村アイデア奨励賞25件を、団体賞として最優秀団体賞1件、優秀団体賞2件、奨励賞3件を決定しました。

平成24年11月16日に東京北の丸の「科学技術館」に於いて表彰式を実施し、賞状、トロフィー、奨学金を贈呈しました。また、佳作50件に対し楯を贈呈し、表彰しました。なお、個人賞の奨学金と団体賞の賞金の合計は3,730千円でした。

2) 復興支援理科教育助成

昨年に引き続き東日本大震災で被害を受けた小・中学校の理科教育が停滞しないよう復興支援理科教育助成2012を行いました。被災地の小・中学校からの応募に対し、市村アイデア賞審査委員会の推薦に基づき理事会にて小・中学校88校（総額20,000千円）の助成を決定し、平成24年8月10日に助成しました。

3) キッズ・フロンティア・ワークショップ

小・中学生を対象に科学技術に関する講話や実験・製作などをおして、科学の原理を楽しみながら理解し、科学技術への興味、意欲を高めることをねらいに（公財）日本科学技術振興財団との共催、文部科学省、朝日新聞社、朝日学生新聞社の後援、（株）リコーの特別協賛で「かがく・夢・あそび」をスローガンにワークショップを実施しました。

平成24年度は、半日コースを平成24年11月16日に市村アイデア賞の表彰式後に東京北の丸の「科学技術館」で実施し、小・中学生37名を含む保護者・引率の先生など合わせて約140名が参加しました。冬休み1日コースは平成24年12月22日、23日に福島市、リコージャパン(株)福島支社、リコーテクノシステムズ(株)東北事業本部の特別協賛を得て、福島市のコラッセふくしまで小・中学生56名、保護者16名が参加し実施しました。また春休み1日コースは平成25年3月9日、10日に北の丸の「科学技術館」で行い小・中学生57名、保護者18名が参加しました。

4. 植物研究助成

第21回植物研究助成は22件(32,700千円)を平成24年5月16日に植物研究園において贈呈しました。

また、第22回植物研究助成は、植物研究助成審査委員会の推薦に基づき、24件(32,800千円)の助成を決定しました。

5. 講演会の開催

市村賞受賞者の業績についてより多くの方々に知っていただくため、産業賞受賞記念講演会として平成24年7月20日に産業賞・功績賞受賞者のパナソニック(株)の古澤氏、西浦氏及び千住金属(株)の加藤氏による講演を海老名市にある(株)リコーのテクノロジーセンターにて、また、先端技術講演会として平成24年12月10日に学術賞・功績賞受賞者の横浜国立大学馬場教授による講演を横浜市にある(株)リコーの中央研究所にて開催し両講演会ともに多数の参加者を得て好評でした。